

20002

IMPELLA 補助下 PCI 中の遊離ヘモグロビンの推移

【はじめに】IMPELLA を使用した心原性ショックに対する補助循環は、本邦でも急速に広がっている。合併症の一つには溶血があり、急性腎障害(AKI)の要因の一つとされている。今回、IMPELLA 補助下にて PCI を施行した際に、遊離ヘモグロビン(PF-Hb)を導入時から離脱時まで適宜測定した 3 例を経験したので報告する。

【症例 1】63 歳男性。LMT-LAD に対して PCI 施行中にショック状態に陥り IMPELLA 導入。導入後 PCI の手技は完遂した。PF-Hb の推移は導入時 0.02g/dL、PCI 終了時 0.08g/dL、ICU 帰室時 0.05g/dL、離脱時 0.01g/dL であった。

【症例 2】83 歳男性。AMI にて当院に緊急搬送された。ショック状態に陥り VA-ECMO + IMPELLA 導入。RCA に対して PCI 施行。PF-Hb の推移は導入時 0.00g/dL、PCI 終了時 0.07g/dL、ICU 帰室時 0.06g/dL、離脱時 0.02g/dL であった。

【症例 3】56 歳男性。AMI にて当院に緊急搬送された。ショック状態に陥り IMPELLA 導入。LMT-LAD に対して PCI 施行後、VA-ECMO 導入。PF-Hb の推移は導入時 0.02g/dL、PCI 終了時 0.21g/dL、ICU 帰室時 0.19g/dL、離脱時 0.03g/dL であった。

【まとめ】3 例ともに PCI 中に PF-Hb の上昇を認めた。IMPELLA 施行時に発生する溶血の要因の一つにポンプカテーテルの留置位置不良がある。今回、位置波形異常のアラートは発生しなかったが、透視画像上で不適切であることが確認された。原因は PCI 手技によるカテーテル同士の干渉が考えられるが、それは避けられない。溶血治療薬であるハプトグロビン(Hp)製剤を使用し、PCI 中に発生する PF-Hb を処理し、溶血による AKI を避ける必要がある。